

# 昔からの習わし



児童朝会の時に、子どもたちに2回に分けて、下記のような年末・年始における昔からの習わしについて話をしました。

## 【昔からの習わしパート】

**除夜の鐘**.....大晦日に108回鐘を撞きます。人が持っている108の煩惱を一つずつ消すために撞くといわれています。

**晦日そば**.....大晦日に年越しそばを食べるのは、そばのように長く幸福にという縁起から起こったといわれています。

**鏡餅**.....鏡は、神様の姿を映すと信じられてきました。そこで、毎年それぞれの家にやってくる年神様が鏡に見立てた丸い餅にこもっているとされています。

**お年玉**.....もとは、子どもの健康や成長を願い餅を贈っていました。

**門松**.....天から降りてくる年神様の目じるし。12月26日～28日か30日に立てる。29日と31日は縁起が悪いということで、立てるのを嫌います。

**おせち料理**...もとは節句(季節ごとの行事)に食べていた料理でしたが、今は、正月に食べる料理のことをいいます。



## 【昔からの習わしパート】

**七草がゆ**.....1月7日には、春の七草を入れた七草がゆを食べる習わしがあります。春の七草とは、せり、なずな、ごぎょう、はこべら、ほとけのざ、すずな、すずしろです。これらの薬草が入ったかゆを食べることにより厄除けをしたようです。

**鏡開き**.....1月11日には、鏡開きが行われます。正月も終わり今日から仕事を始めますよという日で、年神様がこもっていた鏡餅を小分け(切るや割るといふ言葉を嫌い開くといひます)して、お汁粉にして食べます。

小豆がゆ・・・1月15日は、小正月といわれ、保存がきく赤く（赤は魔除けの色）てめでたい小豆をかゆに入れて小豆がゆにして食べます。

昔からの習わしの中には、人々が長年の経験から得た生活の知恵が生かされています。そうした昔からの習わしを見直し、次の世代に引き継いでいくことが大切と考えます。季節毎に残っている習わしについて、親子で話し合ってみられてはいかがでしょうか。

## 「恒例のたこあげ大会」

- よい思い出を作る -

1月16日に、1、2年生が、淀川河川公園にたこあげに行きました。お天気が心配されましたが、時々薄日が差す穏やかな日で、1、2年の子どもたちは、たこあげを楽しむことができました。

現地に着くと、1年生と2年生がそれぞれの場所に分かれ、先生から話を聞いた後、たこあげを開始しました。当日は、少し風も吹いており、最初はうまくあがらなかったたこも、その風に乗って1年の子どもたちのたこも2年の子どもたちのたこも、みるみるうちに空高くあがっていきました。

最初は、うまくあげることができなかった子どもたちですが、広々とした河川公園を走り回るうちに、風をうまく利用してあげるということを体得し、上手にたこをあげていました。河川公園のあちらこちらから

「飛んだ、飛んだ。」

「わ - すごく高くあがっている。」

などの子どもたちの歓声が聞こえました。

風向きとたこのあがり具合を見ながら、一生懸命走っている子どもたちの真剣な顔が印象的でした。

今年は、風の勢いが弱かったせいか、たことたこの糸が絡まることは少なかったですが、後半は、走り疲れたのか座り込んで、友だちがあげているたこを見ている子どもが多かったように思いました。小春日和の一日、限られた時間でしたが、子どもたちは大自然の中で、貴重な体験をし思い出をたくさん作ってくれたことでしょう。

